授業日　６月２７日（火）５・６時間目

学習目標

日本の国防について客観的な知識を身につけ、

自分なりの考えを持てるようになる【２】

…　世界のシビリアンコントロール・集団安全保障の状況把握を通して　…

※　夏休みＦＷ（海上自衛隊横須賀地方総監部・防衛省訪問）に向けて

授業内容

◇　研究の基礎となるメディアリテラシーとは何か理解し、どうすれば身につけることができるか理解する。（岸田翔太郎首相秘書官の流出した首相公邸での忘年会写真…『週刊文春』2023年6月1日号…を教材として）なぜＧ７広島サミット（同年5月19～21日）直後の週刊誌に掲載されたのかなど、情報の裏読みをする。

◇　シビリアンコントロールを学習する前提として、内閣総理大臣の指揮監督権を明記した自衛隊法を確認する。

◇　シビリアンコントロールの辞書的な意味を確認する。続いてシビリアンコントロールの対極であるクーデターの辞書的意味も確認する。

◇　過去に起きたクーデター（ミャンマー・タイ・チリ等）を確認し、起きた原因について確認する。

◇　日本における自衛隊の治安出動（自衛隊はこれまで一度も治安出動したことはない）に酷似する、中国の天安門事件における人民解放軍の出動について、是非や結果について考察する。

◇　集団的安全保障の典型としてＮＡＴＯ（北大西洋条約機構）について学習する。（設立の経緯・ロシアのウクライナ侵攻による更なる拡大の経緯・スウェーデンの加盟問題に対するトルコ・エルドアン大統領の姿勢など、集団安全保障の問題は一筋縄ではいかないことを理解する。）

◇　集団的安全保障に近い方策として自衛隊が行っている、海外軍隊との共同演習・共同訓練合同軍事演習について学習する。相手国がどこか、なぜかを理解する。

評価方法

◇　ワークシート②を完成して、シビリアンコントロールが決して容易なものではなく、様々な要因によって無力化される脆弱で複雑なものであることを理解できているかどうかを評価基準とする。アジア近隣諸国のクーデターを各自で調査する。

宿題指示

◇　アジア近隣諸国のクーデターを各自で調査し、その背景を学習する。